

令和7年度第2回鳥取県立博物館協議会

日 時 令和8年2月4日（水）

13：30～15：30

場 所 鳥取県立博物館 会議室

○山本課長補佐 それでは、時間になりましたので、ただいまから令和7年度第2回鳥取県立博物館協議会を開催します。

本日司会の鳥取県立博物館総務課の山本でございます。よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、委員の出席数の確認をさせていただきます。

当協議会は、鳥取県附属機関条例第2条第2項の規定により設置されており、当該条例第5条第1項の規定により、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないこととなっております。本日の出席委員数は、15名中10名の予定ですが、佐々木委員さんが別の予定で、少し遅れるということですので、9名で会議を始めさせていただきたいと思っております。定数は満たしていることを御報告いたします。

そうしましたら、開会に当たりまして、谷口議長に御挨拶をお願いいたします。

○谷口議長 皆さん、こんにちは。大変寒い中でも、今日は暖かくてよかったなと思っております。

この会も任期は2年でございます。一番最後で、もう開かれなかったら、今日が意見を言えるのは最後になると思っておりますので、皆さんからいろんな立場での意見がありましようし、そういう意見を聞かせていただいたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

今日、議題になっておりますのは、今年の実業の進捗状況と、来年度の実業、さらには、博物館の修復等でございます。それから、美術館の動向についてもあるようございまして、皆さんのほうから、時間の許す限り、意見をいただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○山本課長補佐 ありがとうございます。

続きまして、当館館長の片山暢博より御挨拶申し上げます。

○片山館長 皆さん、こんにちは。本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

当館も昨年の5月にリニューアルオープンということで、7年度、昆虫展でありますとか、あるいは、カプコン展でありますとか、企画展を打ちまして、まあまあのお客さんに入らせていただきまして、多くの皆さんに親しまれる機会ができたかなと思っております。御案内のとおりで、なかなか大きな改修事業のほうは動きがつかなくて、止まっているところではございますが、こうやってできる限りのことをして、多くの皆さんに博物館に親しんでもらうというところ、この努力を怠らないように、8年度も取り組んでまいりたいと思います。それが、ひいては今後のいろいろな事業の進捗のほうにもつながっていくと思っておりますので、また引き続きいろいろな御意見を寄せていただきまして、御指導いただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いたします。

○山本課長補佐 そうしましたら、今後の議事進行は谷口議長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いたします。

○谷口議長 今日は報告事項ばかりでございますけども、順番に説明いただいて、皆さんから御意見をいただきたいと思っております。それでは、よろしくお願いたします。

最初は、博物館登録についてでございます。説明のほうをよろしくお願いたします。

○樫村主幹学芸員 博物館の樫村です。御報告させていただきます。

令和5年4月1日の博物館法の一部改正によって、それまで登録博物館であった館も、改めて登録申請の手続が必要となっております。

このたび、1館から登録申請があつて、申請書類等の審査と現地調査を行いまして、博物館協会の有識者リストに載っている方に御意見を伺ったところ、今回の申請館登録については適当という御意見をいただいたということになります。

最近の概要としては、(1)のところを見ていただきますと、改正前ですと、登録博物館7館となっております。相当施設はゼロです。令和7年12月現在ですと、登録が済んでいるものが6館でありまして、もともと登録

であったんですが、経過措置で令和10年まで登録になっている館が3館あったということです。その経過措置中であつた1館である米子市美術館のほうから、今回、申請があつたということになります。

別紙になっているのは、昨日ですが、実地調査に行つてまいりました。有識者というのが、元文化庁の調査官をされていて、渡辺美術館の学芸部長をされている伊東哲夫さんに、御意見をいただくことにしました。一緒に見て、意見を聴取してきたんですが、登録については、もう問題ないだろうというような御意見をいただいています。コメントとしては多少いただいています。展示室の移動什器が動かすのに危険だろうというようなところがあり、ちょっと懸念があるということで、適時、改修のときに直せるときに直したほうがいだろうというような意見をいただいたという状況です。あと、以前の登録博物館であつた鳥取市のこども科学館、鳥取民藝館のほうとも連絡を取っておりまして、令和10年のこの経過措置中には必ず申請するというお話はいただいております。あと、もともと登録博物館ではなかつた日南町美術館も、スケジュール調整をした上で申請をしたいという連絡をいただいているというような状況です。

博物館登録については、以上になります。

○谷口議長 ありがとうございます。

委員の皆さんのほうで何か、博物館登録について、米子市の美術館さんの登録についてですが、ありましたら、よろしく願います。

はい、どうぞ、森本委員さん。

○森本委員 御存じだったら教えてほしいのですが、鳥取市こども科学館が経過措置で名前が上がってるんですが、ほかの館は大体見て回ってるんですが、この鳥取市のこども科学館ってどこにあるのかな。そもそも子供が小さいときに何度か、そうはいつでも2回ぐらいしか行ってないんですが、その後、何十年もあそこには行ってないんですが、何か博物館らしいものがあるとは思えないんですが、一体あそこは何やってるのかな。行ったことがある方、今の実情を御存じの方、教えてほしいんですが、行かれたことがありますか、担当の方。

○樫村主幹学芸員 はい、行ったことはあります。3階に展示室がありまして、学芸担当

の職員もいて、ふだんは子供たちを集めた体験講座とか、そういうのを担当しているというような状況です。

○森本委員 そうですか。

○樫村主幹学芸員 展示替えも随時、やっていますし、うちの自然担当の学芸員とも交流をしながら、進めている状況です。

○森本委員 そうなんですか。実態はあるんですね。

○樫村主幹学芸員 実態はあります。

○谷口議長 場所は、鳥取市の吉方の文化ホールの中ですね。

○樫村主幹学芸員 文化ホールです、そうです。

○谷口議長 3階か何かに。

○樫村主幹学芸員 そうです。

○谷口議長 もともとはたしかここに、仁風閣にあったところの科学系の電気を起こしたり、そういう科学系のものがあそこに行ったのではなかったですかね。

○樫村主幹学芸員 申し訳ありません、そこまでは。

○谷口議長 そういう流れがあつて。

○森本委員 そうなんですか。

○藤原副館長 仁風閣に科学博物館があったというのは、実はここの館の前身でして。

○谷口議長 そうそうそう。

○藤原副館長 あれがここに来て、科学がなくなって、時代の変化で、今の自然とか歴史。

○森本委員 何で科学がなくなっちゃったのかな。今、全县見ても、科学を専門にやる博物館って、僕は知らないんですけども、この鳥取市のものがそうだと言われたら、そうなのかもしれないんですが、あそこに行ったら恐竜の化石がいっぱいあるとか、ぐりぐりって回したら電気がばあっとつくとか、そういうイメージ、全然ないんですよ。ここにはあつたんですよ。僕はあれが好きで、あれが元で「鉄腕アトム」が好きになって、それで、今、科学に身を投じているわけじゃないんですけど、どっちかというとな歴史のほうに身を投じているんですけども、何か鳥取の子供に科学に寄り添う何か場所がないんじゃないかなって。これはあんまり言うとな、ここの館長さんを苦しめるんで、あんまり言いたくないんですけども、何か全体的に県の意識として、子供に科学に接することができる場所をあげたいなという気持ちが県にあるのかど

うなのか、それをここで質問するのもちょっと言い過ぎなような気がするんですが、もし館長さん、御存じの範囲で、差し障りのない範囲で、鳥取県は今、子供への科学に向けての何とかは、こういう意識だそうで、あんまりはっきりしたことは言えないんでしょうけれども、もし何かあれば、特にないと言えますとわれれば、もうないでいいですけども、立場が立場なんで、あんまり言えないと思うんですが、何か科学に、県のあれがちょっと僕は感じられないので、残念だなと僕は思ってるんですね。せんだってアイスフィギュアで入賞したでしょ、鳥取は。鳥取市が入賞したんですよ、アイスのフィギュアでね。スケートリンクがないのに何で入賞するんだろうなと思ったけど、みんな頑張ってるんだな好きな子はと思うけど、昔、フィギュアスケート場あったんですよ。（「ありました」と呼ぶ者あり）

○中尾委員 8位ですね。

○森本委員 僕はもう快挙だと思っています。あんまりそんな雰囲気ないですけどね。あれは快挙ですよ。

○中尾委員 そうです。

○森本委員 スケート場ないのに。

○中尾委員 中国5県でないの、鳥取県だけなんです。

○森本委員 そういうことで、何か科学に対する県の意識があるのかないのか、どうなのかな、ちょっと聞いてみたいと思う、差し障りのない範囲で、もし分かればですけど。

○谷口議長 どうぞ、館長。

○片山館長 さすがに仁風閣を活用していた時代のことは分かりません。仁風閣からこちらに新しいのを建てて、今の建物があるというのも、もう昭和40年代の話なので。

○森本委員 もう昔の話でね。

○片山館長 さすがになぜそのときに科学がなくなったかまでは分かりません。県として何かしていたかという、当時は、もう一つ、鳥取砂丘こどもの国を新たに、昭和50年代の頭ぐらいに完成してます。今は全く変わった施設になっちゃいましたけど、リニューアル重ねて。

○森本委員 そうですね。

- 片山館長 できた当時は、あそこにもドーム型のいろんな施設があつて……。
- 森本委員 ありましたね。
- 片山館長 その中に、電気とかなんとかという科学ではなかったですけども、プラネタリウムがあつたりとか……。
- 森本委員 あつた、あつた。
- 片山館長 それから、砂丘の風紋を再現できるような機械があつたりとか……。
- 森本委員 あつた、あつた。
- 片山館長 そういった方の、どっちかという自然科学系のものを充実させたという経緯は、当時は、ここが新たにできたのと併せて、同じような時期にあそこに造つたというところはあつたんですね。それ以後、どうなつていったかというところは、確かにちょっと寂しい経過をたどっているのは否めないところかなとは思いますが。科学、特に子供向けということになると、この鳥取市さんの方の施設、頑張ってもらっているというのと、米子の方は、児童文化センターがあつて、あそこでいろんな体験ができるような、米子市は、電子顕微鏡の発明者の方の出身地というのもあつて……。
- 森本委員 そうそう、そうです。
- 片山館長 電子顕微鏡の体験ができたりとか、プラネタリウムがまだあつたりとか、そういうことができるようになっています。そういう意味では、両市の方にちょっとおんぶにだっこみたいなどころはあるのかなとは思いますが、全く県内の子供たちにそういうものに触れる機会がなくなっているということはないかなと思っています。
- 森本委員 今の説明で経過が分かりました。そう言われると、そんなのあつたなというの、思いつくところがあるので、その後、はっきりしてないところはあるんだけども、これは将来に向けての話で、それこそ、鳥取からノーベル物理学賞出そうと思つたら、やっぱりそういう施設は要と思うんですよ。僕は、東京に行くと、必ず科博の地下にある宇宙線がぴゅつと通る、霧箱を必ず見るんですよ。あそこに行って、アルファ線だ、ベータ線だといった、今、僕の体、通り抜けてんだなんて思つて、この年になつたからそっちへ向かおうとは思わないけど、僕のせがれが今そっちのほうに向かつてるので、鳥取にそんなのがもしここの地下にでもあつたら、ひよつとしたらそれを志す子

供は霧箱を見に来るんだらうなとかって思ってね。将来に向けて、もしここを建て直すなんてことがあったら。またこれを言うと、また館長さんに重荷になるんだらうけど、後から出てきますけども、ここの改修工事のことで、県会さんが指摘しておられますけども、バックグラウンドが私はよく分からないので、粛々と進めているのに何が文句あるのかなって僕は思ってるんだけども、県議会さんは、やっぱり将来に向けてのことを思ってたら、ここで無駄金使わずに、建て直しに向かえみたいな崇高な意識なのかなというようにも思いながら、ここであんまり言うと先に進まないで、これぐらいにしますけど。

○谷口議長 ぜひとも、こども科学博物館、博物館登録をされるように進めてほしいですね。

それから、もう一つ、私から聞きたいのは、ミュージアム・ネットワークというので、市町村立のそういう施設ともいろんな手を携えてやっていこうという中には入っておられるんですか。ぜひとも入っていただいて、学芸員さんがいらっしゃるなら、いろんな形で何か連携ができることを考えてほしいですね。要望です。

○福代学芸課長 いずれの施設も加盟していらっしゃいますので。

○谷口議長 その辺で、意見交換されたらどうでしょう。

ほかに、委員さんのほうで。

○内池委員 すみません。

○谷口議長 はい、どうぞ、内池さん。

○内池委員 私、岡山県登録調査の専門家を引き受けていて、3年目が終わりました。今、議論の中では登録することに問題がない、今まで頑張ってもらったから、もうこのままいきましょうということを鳥取県立博物館の樫村さんが中心になってやってらっしゃるんだと思います。ただ、岡山県の場合は、教育委員会の生涯学習課が登録事務をして、県立美術館学芸課長と、県立博物館学芸課長が、専門職として対応しています。専門性の足りない場合は、先ほどお話があったように、有識者リストを基にお呼びするような形にしています。鳥取の場合は、登録されていた館を再登録ということなので、問題がないのだと思います。

ただ、今後、様々な経営主体、例えば自治体ではなく、企業や団体の館が登録を求めてくる場合があると思います。税金の優遇等の措置もあるので、経営を考える場合、必要な選択肢でしょう。しかし、適切な指導を行っていくためには、学芸員の設置や、所有財産や博物館史料の適切な管理を求めていく必要も出てくると思います。今のままでいくと、こちらの館がやってらっしゃるので、要するに鳥取県立博物館は認めないみたいなことになっていくような雰囲気は果たしていいのかなと思いました。

本来であれば、鳥取県教育委員会主管課がすべき事業を、鳥取県博さんが頑張ってやってらっしゃるのかなというふうに、私は今理解しています。このことは、博物館ネットワークの拡大と、適切な館の運営を求めるという真逆のことを、学芸員がしていくことは適切ではないと思います。

私が体験した例では、主管課長さんに立ち会っていただき、館の適切な運営のために、環境管理のために執行残の予算をいくらかでも回していただきたい等のお願いをしたことがありました。その結果、その方がこちらが考えた以上に、予算を回してくださることがありました。実情を知ってもらったり、適切な対応を求めたりということが、必要だと思います。樫村さんが相当苦勞しながら、現場でやってらっしゃるんだと思うんですけど、やっぱり何か行政的に促すような仕組みというのを今後はされたほうが良いのではないのでしょうか。

私たちが取り組んで、何かお役に立てることがあるようでしたら、情報を共有させていただき、岡山とか鳥取じゃなくて、中国地方の子供たちが楽しめるような博物館、美術館というのを維持できるようになっていけばいいのかなと思いました。

○谷口議長 ありがとうございます。

○内池委員 失礼しました。

○谷口議長 ほかにありますでしょうか。

○片山館長 もう一つだけ。

○谷口議長 どうぞ。

○片山館長 補足というか。今日、尾崎館長に来てもらっていますけれども、鳥取県立美術館につきましては、まだオープンしたてで、営業実績がないということで、

まな板に上がる前段の状況であります。ということで、もう全く問題はない、人的にも施設のにも全く問題はないんですが、ないのは実績の期間だけという状況でありますので、御承知いただければと思います。

○谷口議長　じゃあ、楽しみに待っておきましょうか。

確かにあれですね、株式会社がやられるようなところもあるんでしょ。

○内池委員　はい。

○谷口議長　その辺が大変ですよ。

○内池委員　会社の方に、きちんとお伝えすると理解して改善をされます。そのためにも、登録博物館の事業は大切だと思います。

○谷口議長　なるほどね。ありがとうございました。

ほかに何かありますでしょうか。

特に御意見がなければ、次に行きたいと思いますが、よろしいですか。

それでは、2番目の7年度の博物館事業の実施状況、実施の結果だと思えますが、説明をお願いいたします。

○山本主任学芸員　失礼します。歴民担当、来見田が本日休みなので、代わりに山本のほうから御報告させていただきます。

まず、1枚目、1ページ目ですけれども、企画展「とっとりの藩と城」の開催結果についてということで、この後、御覧いただく、今、三ノ蔵と呼ばれている旧美術の展示室で行われております鳥取藩の資料についての展示の開催結果になります。会期のほうは、ここで、5月1日から6月29日とありまして、再スタートに合わせて、新しくオープンした展示になります。ここに書いてある会期の後も、常設展の形として2か月おきに展示替えを続けています。事業としては、申し上げたとおり、美術館の開館に合わせてスタートしたということでして、鳥取城の城跡内にあるということと、久松山の麓にあるということを生かして、自然と歴民の総合的な展示をするということで開始したところであります。当館の持つる日本全国でも有数の資料である鳥取藩の藩政資料を、今まであんまり展示することができないものも数多くあったので、それをかなり多めに展示して、それをかなり高頻度に展示替えしながら展示しています。

結果ですけど、まず、入場者数については、基本的には常設展示室と同じ

ようなカウント数になっているので、これだけでカウントするという事はやっておりません。あと、関連事業については、下の3つを開催したということになります。観覧者の声としては、基本的にはよいというお言葉をいただいております。今まで見れなかったものを見ていただいて、感動されたということとか、あと、担当のほうがかプションなどに親しみやすいような言葉を使ったりとか、あと、人気のある刀剣なんかをかなり展示したりするようなことで工夫をされてしているという状況になります。下がそのときの風景になります。以上です。

○谷口議長 ありがとうございます。

○一澤主幹学芸員 続きまして、資料4の2ページ目からになります。夏の自然系の展覧会「とことん！昆虫展」、自然史担当の一澤と申します。

この「とことん！昆虫展」なんですけども、子供から大人まで、非常に人気の高い昆虫という生き物をテーマにしまして、特に夏休みの親子連れを主なターゲットとして夏に開催いたしました。

結果としまして、入場者数が3万3,618人と、非常に多くの人に来館いただいて、そのアンケートの結果のほうも、非常に好評であったという結果が出ています。こちらの昆虫展は、メインの部分は巡回展でして、大阪や滋賀のほうから巡回してきたものなんですけども、特に鳥取オリジナルのものもいろいろ展示しまして、特に実物標本が約1万点にもなる昆虫標本は、この鳥取県立博物館で所蔵しているものですか、鳥取県内の専門家の方が所蔵している昆虫標本を展示するという事で、鳥取オリジナルのものを展示していたということが一つの特徴です。あと、3Dデジタル昆虫図鑑というものも作りまして、昆虫標本を非常に高精細の3D画像で、いろんな方向から見る事ができるというものも作ったんですけども、それも鳥取大学とか、鳥取、地元の企業さんと協働で作成したもので、これも大変好評を博しました。それから、特筆すべきなのが、蟲部ですね。鳥取県生物学会の分科会として、蟲部というものが、当館の昆虫担当の学芸員を中心にして、小学生とか中学生さんと一緒に活動しているものなんですけども、そういった子供たちの蟲部の活動、研究成果なども展示室の一面で発表しまして、そういったものも非常に好評でして、そういったものをきっかけに蟲部に入りたい

という人たちが出てきたりとか、そういう非常に大きな効果がございました。  
以上で終わります。

○谷口議長 ありがとうございます。

それでは、次は、5ページですか。どうぞ。

○山本主任学芸員 5ページの企画展「大カプコン展ー世界を魅了するゲームクリエイションー」という展覧会の開催結果の御報告をさせていただきます。

この展覧会ですけれども、大阪に本社がありますカプコン社というゲームメーカーさんの展覧会でした。会期は10月19日から12月ということで、50日間会期がありまして、上の1、2展示室のほうで展示を行いました。この展示ですけれども、以前ちょっとお話ししましたが、40年以上歴史のあるカプコンというゲームメーカーの歩みといいますか、そのゲームを作る過程、技術とか、そういう、発想とか、そういう部分のことを展示するという、ゲームの中身というよりは、ゲームがどうできてくるかとか、その歩んできた歴史みたいなものを展示するという展覧会になりました。あとこれは、日本のデジタルゲームというものの歩みを紹介するというものになりまして、文化史というか、技術史とか、そういう視点から見ても非常に見応えのあるものになっておりまして、来館者からも非常に好評をいただいています。

結果のところ、人数としては1万7,802人ということで、人数としては、秋冬シーズンの企画展としては歴代3位の人数になっていました。アンケートのほうを見ておきますと、非常にアンケートの回答率が高くて、3.7%ほどの方に回答いただくもので、カプコンというゲームのファンの方から、もうアンケート用紙の裏表ぎっしり書かれているようなものがたくさんあったりして、かなり熱意のあるアンケート結果を結構得ました。もちろんよかったという方が非常に多くて、特に自分の好きなゲームが見れたということだけじゃなくて、文化史であるデジタルの技術について学べたとか、あと、鳥取で開催してくれたということについて、非常にうれしかったと、こういう展覧会は都会で見ると思っていたのを鳥取で見れてよかったという意見を多数いただいたということがあります。年齢構成の中でもかなり、カプコンというゲームが恐らく20代後半から40代ぐらいの方にストライクゾーンがあるといえますか、ここに非常にボリュームゾーンがあるの

で、こういう方からかなり好評いただいている、その割合としても、ふだん博物館に来られる方でない方がかなり来られていたというのが特徴かなと思っています。

続きまして、関連事業として、一つは、ギャラリートークを担当のプロデューサーさんにしていただいたんですけど、初めての試みで、開幕前日に、特別な形で、特別なギャラリートークという位置づけにして、担当プロデューサーさんにギャラリートークをしていただくというイベントなどをしました。あと、カプコンのゲームの中で扱っている中に「戦国BASARA」というゲームがあって、その中に鳥取県ゆかりの山中鹿之介という武将が登場するので、このキャラクターのパネルを作ったりとか、そういう意味で、コラボレーションのような形をして、下の常設展示室のほうにも人が行ってくれるようにということを意識して作ってみました。反響としては、下のほうにも書きましたけれども、一つ気になったのは、今回展示を、有名な声優さんがする展示解説を聞くことができたんですけど、アプリケーションでWi-Fiにつなぐ必要があって、これがつながらなかったという意見が結構あって、館としても課題かなと思った次第です。以上です。

○谷口議長 ありがとうございます。

それでは、引き続き、常設展示ですか。

○一澤主幹学芸員 では、資料4の7ページ目、令和7年度の展示活動室（通常展示）の展示概要ですけれど、令和7年度の5月から新しくオープンしたという形で、そのうちの一ノ蔵、とっつりの自然史の部屋で、地学のエリアのところで、今月の誕生石というコーナーを8月から新たに新設しました。それぞれ、8月はペリドットですとか、9月はクンツァイトといったように、それぞれの誕生石、この実物標本と、それにまつわる鉱物学的な解説とか、そういったものも加えながら紹介しているという形になっています。こちらの資料では、1月までしか書いていませんけれど、現在は2月、キャッツアイと呼ばれるような、そういった石と、関連して、マライヤマネコの剥製とともに展示しておりますので、また御覧いただければと思います。

それから、とっつりの自然史の部屋で特筆すべきなのが、活動ラボという、いろいろ活動できるスペースを造ったというものがあります。ここは、主に

県民協力等対象団体ということで、鳥取地学会ですとか、鳥取県生物学会という、そういった団体と学芸員と一緒に活動して、標本を作ったり、あるいは標本整理をしたり、そういったような活動をするスペースとして設けまして、そういった活動がないときは、一般の人が図書を閲覧したり、触れる標本を触ってもらったりとか、そういったことに利用できるスペースとしてやっています。5月からスタートして、12月までの活動、利用状況は、こちらの表に書いてあるように、地学会の化石部ですとか、鳥取県生物学会の蟲部ですとか、あと、骨格標本作りの活動とか、そういったもの、合計で約40回ぐらいの、トータルで人数が約200人ぐらいの利用をもらっている、そういった状況です。自然史のほうは以上です。

○谷口議長 ありがとうございます。

それでは、8ページですか。

○山本主任学芸員 引き続き、8ページの二ノ蔵、とっどりの歴史と民俗の報告をいたします。

まず、とっどりの歴史と民俗の入り口のところで、以前は年表があったところが、今、鳥取県の古い絵図、写真をどう見えるかと、日本海を上にして、どう見えているかというものに大きく変更しまして、そういう意味で、鳥取県全体に関わることを紹介しようということで、まず、歴史の窓、5月の1日から、「ぢげのもん大集合」ということで、分野横断的に古来から近代に至るまで鳥取県に関わりのある特産品についての展示を行いました。続いて、8月から11月は民俗の担当で、「次世代に残したい米袋」ということで、米袋についての展示を行っています。この後、11月26日からは、考古分野の石に経を書いて埋めるということについての展示を今現在行っているところです。

続きまして、先ほどの報告とも重なりますけれど、三ノ蔵のとっどりの藩と城です。5月の再オープンに合わせて、先ほど言っていた第1期、5月1日から6月29日の後も、2か月置きに展示替えを行っています。現在が第5期の会期中になっております。先ほど申し上げた鳥取藩政資料を特に多く出していまして、よく出てくるような藩主の肖像画だったりするものは、なかなか絵画資料というのは長期間展示するのが難しいこともあるので、こう

やって2か月置きなどに展示替えを行うことによって、それが絶えず展示されている状態というのがキープされているということが非常に特色かなと考えています。以上です。

○谷口議長 ありがとうございます。

それでは、9ページをお願いします。

○山本課長補佐 9ページの令和7年度博物館利用者の状況についてです。

前回の協議会で、山口委員さんから、前年度との利用者数の比較がどうなっているかというような御意見をいただきましたので、真ん中の表に、前年度の利用者数を上段に括弧書きして、比較できるようにしております。表を見ていただくと、今年度の4月は休館していたということがありまして、4月の利用者数は少なくなっていますけれども、5月1日に再スタートということで、再開後の5月以降の常設展の来館者数は、10月を除いて、増えているというような状況です。それから、常設展の合計の入館者も、昨年度に比べて3,000人程度増えているところでございます。それから、企画展についてですけれども、前年度と比べると減少していますが、これは、昨年度の春に開催した古代エジプト展に多くの来館者があったということと、今年度の5月から6月に開催した「とつとりの藩と城」という企画展ですけれども、こちらの入館者数は、常設展示のほうの入館者数として集計しているということがありますので、減少しているものと思っております。あと、普及活動については、年度の中途ということで、まだ集計中のところがあると聞いていますので、こちらのほうは、年度末には利用者数を確定していきたいと思っております。入館者数は以上です。

○谷口議長 10ページのほうは。

○樫村主幹学芸員 10ページの博物館におけるインターネット関連広報のほうについて御報告させていただきます。

まず、一番最初のところが、とりネットのホームページの広報です。表を見ていただきますと、8,000から1万5,000の間を推移しております。やっぱり昆虫展とか、入館者数が増えるところの企画展のときにアクセスが伸びています。

2番のSNSのほうのフェイスブックによる広報を御覧ください。表のと

ころを見ていただけると分かると思うんですが、昨年度の12月の絵金展が8万件以上ということでアクセスが伸びています。あと、次に伸びているのが、昆虫展の企画のときも、4万くらいはあります。フェイスブックの傾向としては、ユーザーの年齢が上のほうの方が多いということがあります。ですので、絵金展のリツイート、閲覧者を見ると、データの的には、結構50、60、年齢がちょっと上の方がアクセスが多いということで、絵金のときはちょっと渋い感じですので、そのときに伸びている。フェイスブックは、年齢層が高い方のところにターゲットがいるということが統計等から見られるかなと思っております。

次、2-2のSNSのInstagramの広報です。このInstagramですが、始めたのは再オープンした5月からです。去年もInstagramはあったんですが、美術館に移転する美術部門だけが運営しているInstagramで、それは美術館のほうに持っていくということだったので、改めて、こちらの鳥取県立博物館のInstagramを開設したということです。アクセス、閲覧、表示回数というのは順調にやっぱり伸びていまして、早速、1年目に4万に届くくらいの月のアクセスが増えているということです。どうも若手の方は、今、Instagramに移行しているというところもありますので、今後、ここの広報は力を入れていこうと考えているところです。

2-3のツイッターによる広報になります。11ページは数字ですが、次のページの12ページを見ていただきますと、グラフになっていて、分かりやすいと思います。やっぱりさっきのフェイスブックに比べると、絵金展のアクセスが、ツイッターというか、今のエックスですが、アクセスが少なく、昆虫展とか、カプコン展のところのアクセスがすごく伸びるところがあります。やっぱりちょっと年齢が下というか、今子育て世代の方とかですと、どちらかというところのエックス、旧ツイッターのほうの閲覧とか利用が多いという傾向になっております。昆虫展のときも、最初のときに伸びて、少し下がっているんですが、カプコン展のときには、実は、オープンの前のときに、特別ギャラリートークをやりまして、そのときに、エックスでもう一回リツイートしてくれる人は、その特別ギャラリートークに参加できるなんていう特典のイベントなんかもやりまして、その効果もあって、エッ

クスの投稿がさらに伸びるといような形になっております。これも試してやってみたことなんですが、こういう宣伝の仕方なんかも今後やっていく必要があるかなというふうなデータになっております。今後とも改良しながら、四苦八苦しているところもあるんですが、適時適切な方法をしていこうというふうに思っております。以上です。

○谷口議長 ありがとうございます。

それでは、13ページ、ミュージアム・ネットワークは。

○樫村主幹学芸員 続きまして、鳥取県ミュージアム・ネットワーク関連ということで御報告させていただきます。

本年度、研修会を予定しております。これから実施するというので、3月になってからなんですが、昨年度の研修会で、文化財防災マニュアルを読み込むという研修を行いました。特に紙の資料なんかの災害、被災したものをどうするかなんていうことの研修を行ったときに、県とかが持っている凍結乾燥機とか、みんなで共有できる機械がどこにあるかをちゃんと確認しておいたほうがいいんじゃないかと参加者からの意見がありまして、今年度は、鳥取県埋蔵文化財センターが持っている凍結乾燥機を見学しようと計画しておりました。今回、この凍結乾燥とか、そういうことの経験がある中尾真梨子さん、奈良県立橿原考古学研究所の方をお呼びして、講演をいただくというふうな予定です。この中尾さんなんですが、もともと福島県の文化振興財団というところで、東日本大震災のときに水害で被害を受けた古文書とか、そういうものの修復とか、そういうことをされていたということもありまして、その経験を踏まえて、新たな、どこでも対応できるような乾燥方法とか、対処方法なんかも提案いただく講演をするという予定です。会場は、この博物館の講堂を予定しております。それが終わってから、埋蔵文化財センターの職員に、ちょっと離れたところに移動するんですが、秋里分室というところにある凍結乾燥機を確認して、説明をいただくというふうな研修会を予定しているというふうな状況です。今ちょうど公募を始めて、各館、加盟館から反応があって、出欠の連絡をいただいているという状況になります。以上です。

○谷口議長 ありがとうございます。

14ページですか。

○山本課長補佐 最後、14ページの資料収集等の状況についてですけども、こちら、まだ年度の中途ということで、また今年度の移動状況を整理して、年度末に決算していきたいと考えております。

○谷口議長 以上で、7年度の事業の実施状況について説明がありましたが、皆さんのほうで何か御質問とか御意見がありましたら、お願いいたします。

はい、どうぞ、森本委員さん。

○森本委員 たくさん、今回、資料がついてますんで、思いついたところを1つずつ、意見を述べさせていただきたいと思います。

まず、「とっとりの藩と城」の展示について、僕も見させていただいて、昔、大きな年表があったところが変わってて、最初入ったときに部屋を間違えたかいなと思うぐらい、最初の1発目の印象がすごい変わっていたんで、びっくりしましたですけども、事ほどさようにという言葉がありますけども、自分の鳥取藩の幕末の映画を作る過程の中で、鹿児島原口泉先生という、よくテレビに出てこられる先生がおられますけども、あの先生と仲よくなりまして、年に1回ぐらい、遊びに行ってたんですけど、その途中で、森本君、佐賀城は行ったことがあるかといって突然言われて、佐賀城は僕はあんまり興味がないんで行ってないんですけどと言ったら、あそこの本丸御殿のところが博物館、歴史館みたいになっていますけど、あそこの最後の出口のところに大きなパネルで系図が作ってあるので、すごいぞと言われるんですよ。何がすごいんだろうな、鍋島の系図だのになと思って。原口先生が言われたのは、幸姫が真ん中に書いてあるとあって、幸姫って池田治道の娘ですよ。池田の御姫さんなんですよ。それで直接見に行きました。ちょうど明治維新150周年で、博覧会、エキスポをやってたんですよ、佐賀城の鍋島藩のエキスポだったか何だか、佐賀城の150年のあれだったか忘れちゃったけども、とにかく大きなイベントをやってたんですよ。その流れの中で、記念館の出口のこの大きな鍋島直正の関連の系図だったと思うんですけど、それのど真ん中に幸姫さんが載っておるんですよ。すごいな、佐賀県民に表彰してあげたいぐらいなんですよ。鳥取県民で幸姫のこと知っている人って、多分いないですよ。それが佐賀県のあそこのお城の中のあそこの出口のあの

系図の中に幸姫が中心で書いてあるって、書きようによっては、すごいもんだなと思って、僕はびっくりしました。

多分、こちらのほうで、幸姫関連の展示をされるときには、大きな流れの中で、治道の娘で、弥姫、幸姫で、幸姫、鍋島直正の嫁という、ちょこっと書いてあるぐらいのことになっちゃうんですけども、書き方によってすごいインパクトがあるかなと思ったんですね。だからといってというわけじゃないんですけども、同じことでもこれぐらいのことが、書きようによってはこんなになるわけですよ。それが直正のお母さんかよといってね。薩長土肥の四賢侯の殿さんのお母さんが鳥取の御姫さんなんですよ。どれだけインパクトがあるかというのは、ただ、歴史を粛々とやっていくのも、それが博物館の仕事なのかもしれませんけども、僕みたいに、映画監督の立場からすれば、それをどうやって尾ひれ羽ひれをつけてどんと見せるかというのが僕の仕事なんですね。やっぱりそういう目になっちゃうんですよ。

だから、幸姫さんのことはそうですし、鹿児島に行ったときの弥姫さんのインパクトもすごかったですよ。何げない酒屋さんで弥姫さんは鳥取の御姫さんなんだと酒屋さんに言ったら、知ってますよ、そんなことはと言うんですよ。いや、鳥取で弥姫さんのことどれだけ知ってますか。いや、知ってるという人がいるかもしれませんけども。こういう質問の仕方をして、皆さんに申し訳ないですけどもね。

いや、それぐらい同じ歴史上のことで、史実であっても普通に出すのと、すごいんだで、島津斉彬のお母ちゃん、鳥取の御姫さんなんだで。あの西郷さんだって、大分敬愛してたはずですよ、お母ちゃんだから。そういう物の見方、物の出し方によって、どれだけ歴史がインパクトある歴史として皆さんの頭に入るか、印象づけられるかというのは、ひいて言えば、これは大河ドラマにも結びつくんですよ。歴史ドラマを作ってるんで、今度、大河ドラマになればいいなとかってね。

今回の「豊臣兄弟！」だって、鳥取城のことがどれぐらい出るのかな、今までナレーションで終わるのがほとんどなんだけども、「黄金の日日」なんかは鳥取城攻めが2週か3週にわたって放送されましたからね。あのときの吉川経家は、あの人だって、もう死んじゃいましたけども、あの俳優さん

がいい役だななんて、僕は今でも感動してます、経家さんは。死んじゃいましたけどもね。そういうのが、ちっちゃな歴史であっても、それがドラマや大河や、今回は「ばけばけ」で朝ドラに載ってますけども、皆さんも小泉八雲って、あれは松江の人だけど、関係ないわと思ってた人が、9割方そうだと思うんですけども、僕は10年ほど前から鳥取に来てるんだで、八雲さんは、鳥取県民の一部でもあるんだでずっと僕は思ってたんですけども、それで「とっつりの幽霊布団」という映画を作ったんです。そしたら、脚光を浴びちゃって、この前、上映会をしたら、すごい人が入りましたよ。無料にしたので、全然もうかってないんですけども、残念だったな、有料にすればよかったなと思うんですけども。

何か歴史は肅々と、着々とやっていけばいいんですけども、発表するときには、それをどうやったらみんなの心をつかむのか、わしづかみにできるのかという、演出家の観点もちょっと入れてもらって、同じパネルを作るのでも、ただ単に家系図をぼこっと作るんじゃなくて、幸姫、どんみみたいな、弥姫、どんみみたいなんで、鳥取県民、びっくりしただろうみたいな、そんな作り方をするだけで、すごい何か、同じ仕事するのでも、インパクトが違うし、印象づけできるなどかって思ったりしています。それが1点。

すみませんね、まだいっぱいあるんです。

○谷口議長 取りあえず。

2回目からちょっと短めに。

○森本委員 短めに、分かりました。

○谷口議長 いろんな展示するときには、森本さんの意見も参考に企画してください。

ほかの委員さんのほうで何かありますか。

山口委員さん。

○山口委員 この10ページからのインターネットの関連広報についてなんですけども、大変アクセス数が多くなったりとか、フォロワーがあって、いいことだなと思いますけども、インスタグラムのフォロワーがやっぱり614というのは、かなり少ないかなというふうな印象を感じています。この各イベントごとには、これから行こうと思ったりとか、自分が実際行ってみたという人が確認のために見たり、閲覧されたりするんであろうなと思うんですが、フォローする

ことによって、年間通じて、この博物館はどういうような状況でやってるんだらうというような方がフォローすると思うので、フォロワー数を伸ばすという意味で、例えば先ほど言われたような形で、フォローをしていることを確認したら、何かの少し特典があるとか、それから、館内に簡単にフォローできるようなインスタのあれが貼ってあるとかというような形で、何かそういうところを知ると、プラスアルファって、インスタが増えることによっての来客数の誘致とかいうようなことも考えられるのかなと思うんですが、その辺りのことはいかがでしょうか。何か努力されていることとがあれば。

○谷口議長 はい、どうぞ。

○樫村主幹学芸員 インスタグラムについては、フォロワー数が少ないというのは、内実を話すようですけど、私と、もう一人の職員が専門でやってはいるんですが、今までとは違う形でインスタグラムを構造から勉強しながら始めたところがあるんで、若者はすぐ分かるんですが、それを教わりながら今進めているという状況です。ですので、インスタグラムは力を入れていこうと思っているところです。あと、やっぱり参加したところの相互の、この前のカブコン展のときに別のフォロワーとか、情報発信者なんかと連携してやるということの効果はかなりあるなというふうには思っています。その辺りは、可能な限りやっていこうかなというところがあります。ただ、何かコメントの欄とかに、いろいろ相互交流みたいな形をすると、コメントで荒れて、困ったようなときもあるので、その辺りが難しいところかなとは思っています。ちょっと見て楽しめるような映像とかは伸ばして、増やしていこうというふうに考えて、器材なんかも整え始めてやっているところです。御意見ありがとうございます。

○山口委員 私も施設を運営していて、やっぱりインスタに力を入れて、かなりフォロワー数を伸ばしていったら、本当にそれと比例して来客数が増えていって、私どもの来客数、20代、30代、40代というターゲットなものですから、ちょうどそこがもうどんぴしゃという形で、どんどん増えていったもので、つい言ってしまいました。申し訳ありませんでした。

○樫村主幹学芸員 多分ビジュアル的なところを要求する思いで、ここが必要かなと思っていますので、力を入れていこうと思います。ありがとうございます。

○山口委員 ありがとうございます。

○谷口議長 ほかの委員さんで何かありますか。

○井上委員 よろしいですか。

○谷口議長 井上委員さん。

○井上委員 1年間の何かいろいろ展示の更新とかもある中で、たくさんのお仕事をされているのはすごいなと思って、まずは本当に大変お疲れさまでございます。

3つ聞きたいことがあって、1つ目は、去年の夏の昆虫展、「とことん！昆虫展」のことなんですけど、こちらの展示、私も、9月の会期ぎりぎり時間が取れたので、見に来させていただいて、大阪とか滋賀を巡回していたのは、そこは見に行っていないんですが聞いていて、こちらに巡回されてきていて、巡回の部分もあったんですけど、ここにも書かれているんですけど、やはり例えば地域の活動の虫部、それから、鳥取県に関係してる方たちのコレクションが展示してあること、それから、ここの学芸員の方が新種の昆虫を発見した体験記とか、すごく巡回展なんですけど、オリジナルの部分がしっかり出してあって、やっぱり普通の巡回展に頼っていると、もう本当どこでもできちゃうんですね。やっぱり地域の博物館の必要性って、さっき言った、ここの学芸員の人とかコレクションがあることによって、できることをすごくしっかり出しているということは、鳥取県立博物館がここに必要とされる、これからの大事な視点だなと思って、すごく楽しく拝見していました。

その中で、この企画展の中で聞きたいのは、入場者数が3万3,000少々ということで、これまでも昆虫の企画展、恐らく定期的に、過去も何度か見せてもらったんですけど、その過去の昆虫の展示に比べて、どれくらいの人数の位置づけなのかなというのを教えていただきたいというのが1点の質問です。

それから、少しページを飛んで、申し訳ないんですけど、今度は、7ページの常設展示のほうの活動ラボ、2つ目の四角のほうなんですけど、これ、去年の5月にオープンして、すごくいい取組だなというふうに思っていて、結構、1年目で、協力団体さんがあるとはいえ、例えば虫部さんとかって、本当、8月だと14回というと、結構すごい頻度ですよ。これはちょっと

質問なんですけど、この14回って、全部、担当の学芸員の人が必ず対面で一緒に活動されているのか、自主的な活動も含まれているのかというのを教えていただきたいなというふうに思います。結構、1日に1回あって、14回といたら、出勤の2日に1回はこれに対応しなきゃいけないのかなとか思いながら、すごくいい活動なんですけど、やっぱり職員の人への負担があまり多大になると、継続性という観点から、最初はスタートで、立ち上げでしっかり見て、これから徐々に自主的な活動になるとかというのも、もしかしたら方向性であるのかなと思うんですけど、やっぱり学芸員の方っていうんな仕事をやらなきゃいけないので、本当に多忙だと思うので、これがすごく長い目で見て、すごく大きな負担にならずに継続的にできるといいなと思いつつ、この14回というのがどういうカウントの仕方なのかなと思つて質問です。

それから、3点目は、9ページになります。この真ん中の表の中の来館者数の人数があつて、区分に常設展、企画展、それから、普及活動とあつて、これは何か催しとかかなと思つていて、4番目の研究相談というところがあつて、これが、括弧で去年が88件で、今年は525人ですかね、88人から。すごく大きく増えています。月別の数字を見てみて、夏休みとかに偏っているのかなと思つたら、すごく各月にばらけて、毎月50人以上の相談が来ていて、何か去年までに比べてやり方を変えられたのか、何かこういうこと、いつでも相談できますよみたいな積極的な広報をされて、こういう相談が増えたのか、ここのすごく増えている理由というのが分かれば、教えていただきたいなというふうに思いました。たくさんあるんですけど、よろしくお願ひいたします。

○谷口議長 3点いいですか。

○一澤主幹学芸員 では、まず、昆虫展についてです。入場者数が3万3,618人ということで、その昆虫をテーマにした企画展との比較ということなんですけども、実は昆虫をメインとした企画展というのは実はもう何十年ぶりかになるんです。ほかのテーマの中で昆虫も結構取り上げるということはやっていたんですけども、昆虫メインの企画展というの自体があんまり、しばらくやっていたいなかったという状況でして。昭和60年に「昆虫の世界」というのが

以前の企画展としてはやっています。そのときの入場者数が1万2,467人というもので、それと比較すると、今回の昆虫展はかなりたくさん的人数が入っていただいたということになります。また、いろいろじっくりと見ていただいて、本当にありがとうございました。

続きまして、活動ラボの件です。8月に、その蟲部のほうで14回ということがあったんですけども、これは、一つは、同じ時期に開催した昆虫展に、この蟲部の子供たちがいろいろ、例えば飼育展示している昆虫のお世話だったりですとか、あと、自分たちの発表の準備とか、そういう子供たちが関わっている、そういった活動が主になります。回数としては14回と多いですけども、1回の時間はかなり短時間です。それぞれ子供たちが違う日にやってきて、違う人が違う時間帯にやってきて、それに対応するというような形ですので、この時期は昆虫担当の学芸員はそれなりに対応の頻度は高くなるんですけども、ほかの業務を圧迫するほどということではなかったということです。あと、それ以外の活動、もうちょっと大人数で活動するときなんかも、基本的に担当の学芸員もつくんですが、この蟲部のほうは、学芸員以外にも、顧問の大学の学生とか、そういうのが顧問という形で来ているので、そういった人たちと交代で面倒を見たりとかということもやってますので、ずっとその学芸員が付きっきりというわけではないということになります。私のほうから以上です。

○福代学芸課長 3番目の研究相談の件数についてなんですが、実は、恥ずかしいことですが、去年までの件数が格段に増えたというの、集計の仕方というか、ちゃんと残すようにしたというのが正直なところです。研究相談、通常、例えば電話でも何か問合せがあったときに、すぐといいますか、担当に正の字というか、正しい字を書いていって、1日ごとに書いていってというのを、今年度徹底するようになって、これが実際の数というふうに戻ったという形であります。

○井上委員 ありがとうございました。すみません、実は、うちもきちんと取ってなくて、この間、ほかの館の方とやっぱりいわゆる博物館のリファレンス機能って、もうちょっときちんと集約して評価をしていかないといけないんじゃないかというのを知り合いの学芸員に話をしていた、うちもきちんと取ったほうが

いいなと思いながら見ていたので、どうやってやっておられるんだろうと余計に気になって、ありがとうございました。

○谷口議長 よろしいですか。

ほかに。中尾委員。

○中尾委員 9ページの入場者の、利用者の状況、一番下のほうに、第64回麒麟のまち鳥取市美術展と第69回県展が載ってるんですけど、これ見て、人数が少ないとかかなりショック、私、関係者として、受けてるんですけど、69回県展ですね、前期、後期に分かれましたよね、今年から。博物館が改修されて、鳥取市に美術館ができればいいんですけど、多分なかなか、10年、20年しても多分できないと思うんですけど、ここを使わせてもらうことになると思うんですけど、前期、後期に分けて、改修後は、また一つになるかどうか、ちょっと知りたいところがありまして、どうでしょうかね、分かりませんね、それも。分かればと思ったんですけど、無理でしょうね。

○片山館長 現状を申し上げれば、この前期、後期で今後は定着させていくつもりです。

どうしても、一昨年までのやり方でいくためには、もう1部屋要るんですね。

○中尾委員 ですよ。

○片山館長 ところが、やっぱり2階の3部屋のうちの一つは、今、実際、剥製ですとか、あるいは民俗の道具ですとか、そういった大型のものがもうかなり埋めておりまして、もう一度あれを展示室に使うというのは、なかなか物理的に難しいという状況です。したがって、今後は、1、2の部屋を使って、前期、後期制で県展は行っていくということで御理解をいただきたいと思っております。

○中尾委員 分かりました。よろしくお願いします。

○谷口議長 浅沼委員さん、どうぞ。

○浅沼委員 資料にはないんですけど、たしか去年のこの委員会のときだったか、収蔵展示ですかね、新しく始められるということで、ちょっと拝見をしたんですけど、運営の状況とか、もし分かれば教えていただけますか。

○樫村主幹学芸員 数は今集計はしているんですけど、ここで資料がないんですが、月1くらいでぼつぼつと入って、夏休みは数回申込みがあって、リピーターもいるというような状況です。実際、さっきの美術だったところの収蔵室のとこ

ろの申込みというのは結構多いんですが、たくさん受け入れることができない状況でして、それでも結構、学校単位で数十とか、そういうのも入るんですが、少し分けて入ってもらって、少しずつ見ていただくというような対応をしています。ですので、多分、今年は数百人くらいは入っていると思うんですが、1件、1件は別として。ただ、そこでちょっと問題になっているのは、I P M上で数値のぶれが出てきているのが、もしかしたら入場者の影響かもしれないというのもあって、今、どのくらい影響があるかというのを経過的にデータを見ている状況です。実際、カーペットで靴を掃除して入ってもらうとか、そういうことはしているんですが、要望は結構ある。もっとP Rすれば、もっと来るんですが、ちょっと危険だなというところで、ある程度ホームページとかで公表していたり、そういうところで問合せがあったときには応えてはいるんですが、大きく打って出るというようなのは難しいかなと、内部の状況を見ながら、恐る恐る運営しているというような状況です。ただ、見ていただいた方にはすごく好評で、また見たいという方はかなり多いというような状況です。以上です。

○谷口議長 その申込みは、学校教育が、いわゆる子供さんが多いんですか。

○樫村主幹学芸員 子供も大人も多いですが、数字的には多分学校が、下の常設展示と併せて見学するというのが一番最も多い利用パターンかなと思います。

○谷口議長 ありがとうございます。

よろしければ、次に行きましょうか、森本委員さん、いいですか。

○森本委員 短めにで。今回、カプコンの展示をされたということで、僕はあんまりゲームをやってなかったんで、カプコンといっても、びびびとこなかったんだけど、今後のことは今後のことでまた出るかもしれませんが、コナンの展示するというのを見て、びっくりしましたね。しかも、県美だと思ったら、博物館のほうで。どうなってるんだと思ったけど、コナンの展示はすごい。ぜひ観光のほうとタイアップしながらやって、もうぜひこの県博の知名度アップにうまい具合につなげてもらったらと思いますよ。それと、来年、ゴジラやるんですよ、県美さん。あれにも僕はもう感動しましたね。ゴジラのイベント、僕は、もう日南町と今仲よくやってて、ヤマタノオロチとキングギドラとゴジラでつなげて、日南町でゴジラのイベントをやるうと思って、ず

つと東宝と交渉するんだけど、うまい具合にいかなくってね。そしたら、簡単にぼんってゴジラ、簡単じゃないかもしれませんが、ゴジラのあれをやられるというので、ぜひ日南町とタッグ組んでやっていただけたらと思うんですよ。コンサートのほうはすぐできるように根回しもしてるんで、うまい具合にできないかなと思って、また相談に行きますんで、ひとつよろしくをお願いします。

○谷口議長 もう次の来年度の事業の話になっておりますので、次に行きましょう。

8年度の博物館事業計画について、説明をお願いします。

○山本課長補佐 それでは、資料の5を御覧ください。1ページ目と2ページ目が令和8年度の予算要求の概要をまとめた一覧表になります。

1番の企画展開催費については、それぞれの担当から後で説明しますので、私のほうから、2番以降の事業について、新規とか、変更点などを主に御報告をいたします。

まず、2番の企画展開催費（R9開催分）ですが、令和9年度に開催予定の企画展の経費を債務負担要求ということで要求しているものです。博物館の主催として、「恐竜のごちそうたち」という企画展と「忍者展」という2本の企画展を計画しているところです。それから、もう一つは、民間事業者が主催する企画展に博物館が共催で参加するという企画展を1本、博物館が計画するものとしては、この3本を令和9年度に計画しているところです。

それから、次に、3番の博物館運営費ですけれども、博物館の施設の管理運営に必要な経費を要求している事業になります。新しいこととしては、防火シャッター更新工事の設計委託ということで、これは1階と2階の展示室入り口のシャッターが老朽化していて、修理も難しくなっているということがありますので、更新を計画しているものです。それから、備品購入ですが、展示用LEDスポット照明は、現在使用している展示用の照明をLEDに更新をするというものです。冷凍庫、乾燥機ですが、博物館資料を薫蒸する薬剤が販売終了になったということがありまして、薬剤薫蒸ができなくなるということで、代替りの対応として、冷凍庫や乾燥機を使って予防的措置を強化していきたいというものです。それから、防虫・防菌対策のモニタリング調査、棚購入・設置ですけれども、カビや害虫の被害を早期に発見と

か、早期対応して、資料を被害から守るということで、モニタリング調査の場所を増やすというものと、収蔵庫に資料を保管する棚が不足しているということがありますので、適切に資料を管理するために棚を設置していくというものです。それから、緊急地震速報装置整備は、現在設置されている機器が令和8年度で利用が終わるといったことがありますので、代替の機器を整備するというものです。

4番の自然史事業費ですが、シルバーウィーク特別展示「新着資料おひろめ展」ですが、これは近年収集した資料をシルバーウィークに合わせて特別に公開を計画しているものです。展示する資料はライオンの剥製、貝類標本コレクション、カマイルカ骨格標本などを予定しています。蛍光鉱物展示装置製作ですが、以前あった装置は老朽化したということで、昨年度、廃棄していますので、新しくLEDを使った展示装置を製作するというものです。

それから、5番の歴史・民俗事業費ですが、展示ケースの照明のLED化ですが、歴史と民俗の通常展示室に設置されている展示ケースの照明器具、こちらをLEDに更新するというものです。照明器具が老朽化していることや蛍光灯が今後は製造終了になっていくということがありますので、LEDに改修することで、作品保護や効果的な演出が期待できるということで計画をしております。それから、次、丸木舟の移設作業は、1階の休憩コーナーに展示してある丸木舟ですが、こちらが直射日光が当たって、あまり環境がよくないということで、展示室の中に移動して、展示環境の改善を行うというものです。

それから、6番の美術事業費ですが、美術資料や歴史資料を1階の「とっどりの藩と城」で展示を行ったり、美術資料の保存、修復を行っている事業ですが、令和8年度は、松江市内の寺院から幕末関係の貴重な資料を特別に借用して展示紹介するという予定をしております。

7番の博物館学習支援事業費ですが、博物館の出前展示で、学校などから、見るだけではなくて、触れる展示もしてもらいたいという要望があったということで、今年度は、土器パズルとか、子供用かすりを制作したところですが、来年度も出前展示用キットを制作して、触れる展示を増やしていきたいと計画をしております。

それでは、各事業の新しい点とか変更点は以上ですので、1番の企画展開催費について、令和8年度の予定されている企画展について、各担当のほうから説明をしたいと思います。

○福代学芸課長 それでは、自主企画、3ページ、4ページに要項をつけております「妖怪・幻獣づくし」という展覧会について説明申し上げます。

主催、鳥取県立博物館とマスコミで実行委員会形式になると思います。それに読売新聞社さん、並列であります。特別協力で兵庫県立歴史博物館と上げておりますが、実は兵庫県立歴史博物館で4月、ゴールデンウィークから6月にかけて開催し、当館は、その後、7月の初めから8月いっぱいという会期で展示をする。夏ですので、こういった妖怪とか、幻獣というものをテーマに上げております。妖怪、幻獣の中には、一番初め、ヤマタノオロチにはじまり、かっぱ等々、メジャーな妖怪、それから、幻獣としては、やはりかっぱもですが、竜、そういったミイラなども展示する予定であります。兵庫県立歴史博物館の資料、それから、当館の自然標本資料も合わせているということで、両館で開催するのと同時に、兵庫県出身の民俗学者である柳田國男、そして、当県の境港市出身の水木しげるさんを最後まとめに持ってきて、日本人の考えてきた妖怪観というものを紹介する展示であります。また、夏休みですので、低年齢層といたしますか、お子さん、家族連れにも楽しめるような内容にしていきたいと思っております。

○谷口議長 次は、6ページ。

○山本主任学芸員 もう一つのほうの令和8年度企画展「名和長年とその一族」について説明をさせていただきます。

この展覧会ですけれども、今現在の西伯郡大山町の御来屋周辺に名和という場所がありますけれども、そこの地元の武士であった名和長年という人と、その一族について光を当てるといふ展覧会です。名和長年という人自体は、鳥取県では非常に有名な人で、大体の方が名前ぐらいは聞いたことがあるというレベルの有名な方で、全国的にももちろん知られている人なんですけれども、この名和長年が後醍醐天皇を迎え入れて、船上山で戦った。この結果、鎌倉幕府は倒幕したという、そのストーリーそのものは非常に有名なんですけれども、それに関わって、例えばその名和一族はその後どうなったのかとか、

あるいは、その名和一族が近代に至るまで続くんですけども、その歴史がどうなったかとか、そういうことって、ほとんど展示されることがなくて、昭和63年に米子の山陰歴史館さんで名和長年の資料展というのをしたことがあるらしくて、そのときに、展覧会をした以降、恐らく名和長年の展覧会というはされていないのではないかなと思います。

今回、ここに書きましたとおり、鎌倉幕府の倒幕以前の名和一族が現在の御来屋にやってくるころから、近代に名和家は男爵家として残りますので、その近代に至るまで700年近い歴史を、資料に基づきながら紹介していくという展示にしたいと考えています。特に、鳥取県の実は展示としては非常に少なく、実際、鳥取県に名和一族がいた時代って100年ぐらいで、あと残り600年間は熊本県の八代とか宇土、あるいは、福岡県の柳川、そして、東京と、次々と場所を変えながら一族は生き延びていく。ただし、一方で、名和とか、伯耆という姓を忘れなかったり、ずっと船上山で戦ったことというのを家の誇りにしているという意味で、そういう意味では、鳥取県を離れて長いけれども、ずっと鳥取県を忘れなかった一族として、鳥取県で展示する価値があるのかなと考えているところになります。

展示の資料としては、隣に載せましたけれども、本物は借りるのが難しくレプリカになってしまいましたけれども、ほかには、大山町名和にあります名和神社さんと、その名和男爵家の御子孫から資料をお借りすることができていまして、特に名和家の大体当主が持ってきて、受け継いできた2巻の巻物があって、これが当主のあかしなんですけど、それを展示したりとか、今まで恐らく展示されたことがない名和家に関連する資料類をほぼ一堂に展示するように心がけるといふ展覧会にしたいと思っています。今回、1展には割と重要文化財級を含む南北朝以来の一次資料をしっかりと展示して、2展以降で名和神社とか近代の名和家に関わるようないろいろな資料を展示するというような構成立てを考えています。その関連資料としまして、今考えているのは、琴浦町のほうに名和一族のシンポジウムという形ですね、名和家に関する新しい研究とか、今後どういうふうに進展していくかということも見通しを紹介できるような場をつくりたいと考えている次第です。ほかにも幾つかイベントごとも考えているところで、できたら、名和家のことを広

く知ってもらふ機会にできたらなと考えています。以上です。

○谷口議長 ありがとうございます。

その次は。

○尾崎館長 次は、これから間もなく「江戸絵画から《ブリロ・ボックス》まで」の展覧会が博物館が始まりますけど、今の美術館が倉吉にできたということで、鳥取地区で美術に触れる機会が減ったんじゃないかということで、年に一度、美術館のコレクションを持ってきて展覧会を開くことにしております。それで、1回目が今申し上げたこの「江戸絵画から《ブリロ・ボックス》まで」という展覧会なんですけど、2回目の展覧会を今準備しております。それで、当然、美術館は非常に多くのジャンルの作品を持っておりますので、ジャンルを横断する形で、今年は名品展的な形ですが、来年は少しテーマを決めまして、「旅するアーティスト」という展覧会を考えております。これは、もう少し具体的に言いますと、実は今年、小早川秋聲という日南町出身の、博物館でも過去に大きな個展をした作家がおりますが、日本画家がいますが、彼が世界中をめぐったデッサンといいますか、下絵が大変はやりましたし、それから、伊谷賢蔵とって鳥取市出身で洋画家の遺族から作品をかなり頂きまして、その中に南米で取材した作品とか入っておりますし、ほかにも、近世絵画ですね、それから、現代美術に至るまで、旅とか、別の土地とか、そういったことをテーマにした作品というのがあるなということで、そういったことで、来年につきましては、こういった「旅するアーティスト～江戸時代から現代まで」という形で、美術部門の企画展を考えております。会場としましては、今回同様、第1、第2展示室を考えておりまして、外部講師による講演会とか、それから、ギャラリートーク等、そういったものを今年同様にやっていこうと思っておりますので、これで、毎年、定着させて、年に一度は美術館のコレクションというのが鳥取の博物館でも展示されるというような慣例をつくっていきたいと思っております。以上でございます。

○谷口議長 ありがとうございます。

○藤原副館長 続きまして、10ページ、11ページを御覧ください。民間が主催する企画展への共催参加でございます。

共催参加の趣旨でございますけども、この共催参加は、ここ数年の新しい

取組になります。本県では、県立美術館が開館して、美術部分の大半が移転しましたが、ここの博物館における県民サービスを低下させないよう、年間、これまで同様、4本の企画展を開催するということをしております。そうはいいまでも、美術の学芸員10人が倉吉のほうに移転しましたので、そのマンパワーを補う形式として、民間の方と協働で開催する企画展を公募することといたしました。令和6年度には、新日本海新聞社様が応募いただきまして、「古代エジプト美術館展」を開催いたしました。令和7年度は、公募いたしました。令和8年度は、「名探偵コナン」の企画展を開催することができるようになりました。

2番の共催参加の内容でございますけれども、(1)で、ア、イ、ウ、エという内容を博物館から事業者様に支援させていただきまして、その代わりに、(2)番のことを事業者様に提供していただくという仕組みにしております。こういった形で、まず、事業者様にとっては、収支のリスクが低減して、安定的に企画展を開催できるということと、収支をペイできる企画展の範囲が広がって、より上質な鑑賞機会が提供できる。それと、3つ目は、監視員とか受付員、それから、駐車場警備の手配の業務が軽減できるといったメリットがございますし、鳥取県にとっても、入場料の軽減をしていただくことで、特に若年層に対して鑑賞しやすい環境を提供できるというふうに考えてございます。

3番の令和8年度の企画展の内容でございますけれども、鳥取県出身の漫画家、青山剛昌先生の代表作「名探偵コナン」のテレビアニメ30周年になるそうございまして、それを記念した企画展でございます。添付資料として、こういったチラシを入れさせてもらっております。これは、日本海テレビ様が応募いただきまして開催にこぎ着けたものになります。会期は、4月4日からございまして、前売り券の販売は、今週の土曜日、2月7日から販売開始になります。鳥取県はまんが王国を標榜してございますので、県庁のまんが王国官房という部署が中心になりまして、県内のコナン関係施設を回るようなスタンプラリーも計画されてあります。

それと、11ページに、全国の巡回のスケジュールを載せさせてもらいましたけれども、まず、2月20日から東京で開催されます。その次に鳥取にや

ってきます。東京会場では、一般が2, 200円、学生は、小学生でも1, 500円の入場料が必要らしいですけども、鳥取県では、一般1, 900円で、大学生以下は無料ということで調整ができましたところがPRポイントだというふうに思っております。説明は以上です。

○谷口議長 委員の皆さんでまた御意見等ありましたら。

森本委員さん、手短に。コナンが出ましたよ。

○森本委員 さっきのコナンすごいですね。ようできましたねコナン。向こうからほいほい言ってきたわけじゃないでしょ。大分働きかけたんじゃないですか。

○片山館長 もう正直、我々ではないです。日本海テレビさんが機敏に動いてくださったというのが実態です。

○森本委員 すばらしい本当に。こんなことができるんだなと思って、ちょっと感動しますよ。東京の次でしょ。すごい。以上。

○谷口議長 ほかの委員さん、いかがでしょう。

碓委員さん、どうぞ。

○碓委員 2点あって、一つは、要望なんですけども、「妖怪・幻獣づくし」展ですけど、これまでの自主企画じゃない、たとえ自主企画じゃない企画展にしても、鳥取さんのカラーをすごくきちんと出して、中にちゃんと鳥取の資料を入れたりとか、そういうこともすごくされていて、そこがすごい鳥取さんの学芸員さんのすごいところだなといつも思っているんですけども、ぜひ「妖怪・幻獣づくし」も、水木しげるだけではなくって、鳥取オリジナルの何かそういう妖怪ってどういうものなのかというのがちょっと分かりやすいような展示をここに盛り込んでいただければなというふうに思いました。

あと、もう1点なんですけども、これは質問なんですけども、民間業者が開催する企画展というのをこれからされていくということなんですけども、ちょっと申し上げにくいんですが、コナン、鳥取県博として受け入れるべきか、受け入れないべきかの境界線ってどこに引いているのかなというのをちょっとお伺いしたいなと思って。要は何でもありになっていっちゃうと怖いなというのが正直なところなので、そのバウンダリーはどこなんだろうということをお伺いしたいと思います。

○福代学芸課長 妖怪展のほうで、地元の資料、ヤマタノオロチ、島根の神話に登場する

ところからもなんですが、形態が似ているというところで、鳥取の藁蛇なんかも併せて展示して、もちろん姫路も巡回する予定でありますし、鳥取県中部の山間部で聞く土転びですかね、そういったものも紹介する予定であります。

○谷口議長 2点目はどうですか。

○片山館長 正直申し上げて、線引き、明確な基準というものがあるわけではないです。

何でもありになるんじゃないかというところは、今後、こういった提案が出てくるかという中で、1個、1個見極めていくしかないかなと。コナンであれば、一つは、これはアニメの30周年記念ということもあって、中身を見たところは、やっぱり制作されるその過程といいますか、青山先生の手紙がなくて、そこにアニメーターが絡んでいってみたい、どちらかというところ、アートの作られていく過程、そういったものが見られていくという観点でいけば、博物館での展示というのも全然おかしくないのかなと。なおかつ、青山先生です、本県出身であります。まんが王国というのもあって、これはふさわしいかなと。その前の新日本海新聞社さんが持ち込まれたエジプト展については、これはまさに世界の考古であります、ということでよかったんだろうということであります。例えば、これは持込みではないんですけども、秋にやったカプコン展、ゲーム会社の展示をなぜ県博でというのは、割と疑問を聞くこともあったんですが、これもやはり中を見てみますと、クリエイターの皆さんの手書きの原案から、最後、製品に仕上がるまで、非常に、これもアートが作られていく過程と、それから、日本の誇るゲームのテクノロジーの紹介、こういったものが見られる展示になっていましたので、これも博物館としてはありだよなと。あんまり限定的に、限定的にとやっていても、なかなか面白くないというところもありますので、そこは一つ一つ吟味しながら、これであれば、博物館でやってもいいんじゃないかというところはなるべく広く取りたいなとは思っていますけれども、おっしゃるとおり、何でもありで、これ、うちでやるのかと、あまりにもというようにことであれば、そこはきちんと審査をしてやっていこうかなと思っています。いかんせん、コナンはまだ2つ目か。

○藤原副館長 そうですね。

○片山館長 これから実績を積み上げていくということもありますので、試行錯誤しながらという感じで、だんだん積み上がっていけば、ある程度基準的な目線合わせができるようになると思いますので、しばらくの間は、そういった格好で頑張っていきたいなと思っています。

○碓委員 ぜひ、すみません、割とうちの県なんですけど、若干、なし崩しになっちゃてるようなところもあるので。

○片山館長 なるほど。

○内池委員 それはコメントしろと。

○谷口議長 いいですか。

ほかの委員さんのほうで。はい、どうぞ。

○浅沼委員 来年の「妖怪・幻獣づくし」ですけど、水木しげる先生は、私が昔、所属していた博物館でも原画展をやったりとか、子供のときから、のんのんばあと、出雲大社とか、鰐淵寺辺り、一畑寺、とかもしょっちゅう連れられて歩いておられて、実際に、一畑寺には記念の関係のものが置いてありますし、水木しげる先生、出雲にすごい思い出があった方ですので、ぜひ、開催されるときは、島根県に対しても広報を強化していただければと思います。よろしくお願いいたします。

○谷口議長 ほかの委員さんで何かありませんか。

○森本委員 この前、若桜町でちょっとした講演会があって、足を運んだんですけど、その中に、若桜町の町民さんが昔から言い伝わっている大蛇のミイラさんがあったんですよ。それで、持ってきておられて見たんですが、蛇かなって思ったんですけど、大蛇のミイラだということで伝わってるということで、僕らもそういったものがあるって全然知らなかったんですが、多分、若桜町民も多分御存じないやつだと思うんですけども、例えばそんなのが借りてこれるかどうかわからないですけど、これの展示の一つで、若桜町のこんなのでって展示したら、若桜町民、いっぱい見に来るんじゃないかなと思うんで、例えば来館者アップの一つにもなるし、若桜町のお宝の一つのPRにもなるんで、若桜町教育委員会に声かけたら分かるんじゃないかなと思うんですけども、一つ情報提供で。以上です。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

○浅沼委員 全く同じで、島根県の出雲市に須佐神社という神社があるんですけど、あそ

こにオロチの頭蓋骨って言われてるものがあります。

○森本委員 そうなんですか。

○浅沼委員 ええ。（「資料調査して」と呼ぶ者あり）

○谷口議長 はい、どうぞ。

○内池委員 他の博物館でも困っているみたいですが、LED化をしなければいけないということで、各地で進めてらっしゃると思います。ある県立の館が展示室のLED化を来年度に向けてやろうとしたら、落札できなかったという事案がありました。今、鳥取のほうもされようとしてるんですけど、大丈夫なのかな、できそうですかというのが一つお尋ねなのと。

今さっきから話題になりにくそうなのですが、山本学芸員さんが万難を排して準備をしてきたので、あえて質問をします。今年度、豊臣秀吉がとか、「豊臣兄弟！」ですね、大河ドラマをしているので、今把握している範囲でいくと、うちが宇喜多氏をする、それから、徳島城博物館が蜂須賀正勝をするという、どこかかするようにしています。名和長年を鳥取県博で展示すると、皆さんが燃え上がる内容なんならそれでいいと思うんですけど、すごく渋いと思うんですね。そのような中で、何か絶対どのテーマの展示にも負けない工夫をするんだということを言っていたら、皆さんも今日、帰られるときに、印象に残るんじゃないかなと思うんですけど、いかがでしょうか。LEDについては、分かる範囲で言っていたらしくて、あとは、山本さんが言いたいことを言っていたらいいかなと思います。

○谷口議長 LED、どうですか。

○桑本課長補佐 LED化についてですが、当館では来年度と再来年度、財源として使えるものは使いながら2か年で行う予定にしています。大きく3種類で分けていまして、部屋・廊下などの建物照明は、単に器具をLEDに置き換えるというのがベースになり2か年に分けて工事を行います。それから、お話のありましたスポットライトについては、来年度は通常展示分、再来年度は特別展示室分を取り替える計画です。そして、通常展示の照明については、来年度は歴史・民俗分野、再来年度に自然分野を取り替える、このように順次行います。

おっしゃられるように、工事請負費にしても機器購入にしても非常に値上

がりしています。現段階で必要と思われる来年度分予算は要求しているのですが、あとは、実施の際に値上げでどうしても予算に収まらないところがあったらその際に調整することになるかと思えます。

全国的に需要が増えており納期の問題もありますので、なるべく早い段階で発注し進めていきたいと思えます。以上です。

○谷口議長 その際には、シャッターとか、いろんな工事がありますが、開館したまま、特に閉館とか、そういうのは予定はされてない。

○桑本課長補佐 おっしゃられるように、シャッター工事は施工の際に展示室使用に影響がありますので、来年度は設計のみを行い、どの程度影響が出るかを検討しておいてから、それを踏まえて再来年度に工事をする、そういった進め方をしようと思っています。

○谷口議長 なるほどね。分かりました。

○山本主任学芸員 構成段階で実は渋いというのは重々承知しておりまして、一つは、今回、今年の展覧会、人文系の華やかなものが多かったのも、逆に渋さが際立つかなというところは一つあったので、出している。もう一つは、今回、名和長年展なんですけども、もちろん名和家の歴史の部分は一次資料でがっちりとしたやつでやりたいという気持ちがあるんですけども、その他の部分については、かなりふわっと、ふわっとという言い方あれですけども、親しみやすいものにしたいなと思っていて、一つ、例えば、思っているのが、「日本昔ばなし」というのがありますが、「まんが日本昔ばなし」、実は名和家のお殿様が主人公の話があって、これ、何か一番最後の名和家のお殿様なんですけど、この人が実は自分の家の歴史を語る体で実は展示を全部構成しようと思っていたりとか、あと、ほかにもイベントごとで、例えば大山町で昔やられてた行事で、後醍醐天皇レースというのがあって、みんなが後醍醐天皇をしょって走るというレースがあって、これを何とかそこでできないかとか、幾つか、名和家をもう少し身近に、名和長年って、もう教科書からも名前が消えてしまって、今もう高校生でも授業で習わなくなっているというので、もう知らなくなるのも時間の問題であろうと私も思っていて、最近結構、南北朝時代が、漫画なんかでも取り扱われて「逃げ上手の若君」とか、幾つか有名なタイトルも出たので、南北朝時代そのものにも関心が高まっている

ので、こういうところとか、あと、近代に至って、名和長年が結構戦争に利用される時代もあり、その後、非常にラジカルな評価を下されて、今、それを学術的に捉え直そうという動きがあるので、どうやって名和長年という人が変化してきたとかということとかは、今の人たちにも非常に訴えるところがあるのかなと思っていて、ただの歴史の展示だけにならない、そういった部分も触れたいなというふうに思っているところです。以上です。

○谷口議長 ありがとうございます。

次に行かせていただいてよろしいですか。

次は、博物館改修について。

○藤原副館長 資料6を御覧ください。前回の博物館協議会が6月でございましたので、その後、県議会で博物館改修に関してあった動きについて報告させていただきます。

1 ページ目は、9月議会におけます自民党代表質問でございます。抜粋でございます。この質問の前提といたしましては、令和6年の議会常任委員会で、博物館改修の一つの案として、事業費が45億円、工事に伴う休館は、枯らし期間も含めて、38か月というふうな報告をさせてもらっていたことを踏まえての質問でございます。

議員は、耐震改修と設備改修だけでそんなに長期の休館や多額のお金がかかるのであれば、より来館者が呼び込めるよう、リニューアルの視点も入れたほうがよいのではという質問でございました。質問に対しまして、知事のほうからは、いろいろやろうとすると文化庁からストップがかかりかねないと答弁されました。教育長につきましては、博物館を改修して東部地区の拠点とすることは揺るぎのないことだというふうに前置きをされた上で、博物館協議会の森本委員の発言を引用されまして、仁風閣が閉館中の今、それをするのか、踏み出すタイミングをよく見極めたいというふうに答弁をされました。

2 ページの(2)になります。中段からになりますけども、これは、野坂議員の一般質問の抜粋でございます。この質問の前提は、令和6年1月の能登半島地震を受けて、博物館改修は、まずは急ぐ耐震改修を県直営で発注して、設備の改修は、PFIなど、民間活力の活用を前提に、2段階目で行う

という方針が決まっていることに対する質問でございます。

議員は、耐震改修と設備改修は一体的な発注のほうが合理的なので、そのように検討を進めるべきだと質問されています。この質問に対しまして、教育長は、これまでの方針どおり、耐震改修は県直営で行い、設備改修は民間活力の活用を前提に改修に向かいたいと答弁されました。

3 ページ目から 4 ページ目にかけては、議員の追及質問になります。博物館は、史跡の中にあるので、文化庁協議が必要となり、難しい現場だから、事業参加へ手を挙げる事業者がないのではという説明と、能登半島地震を受けて、県直営で直ちにやらないと、県民の安全・安心や所蔵物が守れないという説明で、まずは耐震改修を実施するという事だったけども、いまだにこういう足踏み状態であるならば、耐震改修と設備改修を一体的に行うこととして、飛ばされた P F I 導入可能性調査を実施すべきではないかという質問でございます。

それから、4 ページ目の下半分になりますけども、これは、令和 6 年度の決算につきまして、議会で特別委員会が設けられて審議いただいた結果の指摘事項でございます。議会での一般質問と同じ趣旨になりますけども、民間活力の活用について再検討すべきであり、事業者への聞き取りとか、他県での事例を調査するよという内容になってございます。この指摘に対しましては、県庁で官民連携を所管いたします、そういった課がございしますが、そちらが中心になりますけども、他県における改修の民間活用事例とか、休館とか、工事費の縮減を可能とする手法があるのかないのかを含めて、調査していくこととしております。説明は以上です。

○谷口議長 今後の話ですが、議会の動き等も伝えていただきました。委員の皆さん、いかがですか。何かありましたら、お願いいたします。

○浅沼委員 つい先月、1月の6日ですか、松江市では地震が発生しまして、私、今、松江市役所のほうに出かけているんですけど、大きく揺れまして、松江市役所は、今、新庁舎を建てておりまして、全体はもう完成してるんですけど、まだちょっと内装工事が残っていたという状況です。別館と呼ばれている建物が市役所周辺にいっぱいありまして、そこへ職員が分散して仕事をしているという状況だったんです。地震発生以後、別館が使用できなくなりまして、

そこで勤務していた職員が全員、たまたま新館が完成してて、内装がまだなんですけど、幸いにも完成してたということで、急遽、別館にいた職員が全員、今そちらへ避難生活して業務に当たっています。机も何もないですから、こういう会議机を持ってきて、臨時に各課の配置をして、現状、行っているという状況です。このお話は、もう以前からずっと出ていますが、やっぱり耐震化というのは、とにかく進めていただきたいというのが私の今回の実際の経験で、その前の2000年の鳥取西部地震も経験していたんですけど、いつ地震が起こるか分からない、日本全国での状況ですので立ち止まることなく、懸案事項もございまして、ぜひ人の安全、やはり、博物館も災害発生すると、近隣の方の避難施設という役割も担っていくんだと思いますので、何とかいい方向に進めていただきたいなというふうに思っております。

○谷口議長 市役所の別館って、松江の宍道湖のほりにある。

○浅沼委員 そうです。

○谷口議長 本館もたしか一緒に近くにあるんじゃないですか。

○浅沼委員 新しく建て替えてたので、たまたま建て替えていたので、間に合ったというか、偶然ですけど、出来上がってたので、みんな助かった。これがもしまだ完成もしてなかったら、本当に業務が停滞してしまい、市民を守らないといけないのに守れないという。

○谷口議長 いわゆる普通のオフィスビルみたいな建て方ですよ。

○浅沼委員 そうですね。一応耐震化はしてあったんですけども。

○谷口議長 はい、どうぞ。

○佐々木委員 ちょうど鳥取城跡については、来年、再来年で、今の基本計画を見直して、保存活用計画という法定計画に乗り換えるタイミングになっていますので、県立博物館さんの方針等とすり合わせができれば、文化庁の承認というのは取りやすくなっていくことがありますので、密に連携を取らせていただければ。史跡内の博物館は移転してるものが多いので、史跡内で改築してる事例は、存じ上げないのですが、内部耐震補強とかは、西高校で実際やっていますので、掘削を伴わなければいいのかというところもあります。今回、私どものほうで検討委員会、新たに立ち上げ直しますので、そちらに史跡の先生方も入っていただきますので、中で県立博物館さんの方針等について整合性

が取れるようにさせていただければなというふうには思っているところです。防災計画とかがやっぱり今、史跡の保存活用計画だと、必ずやらないといけませんので、そういったところでの御協力もいただけるかなというふうには思っております。実際、御存じのように、鳥取城の計画の場合は、工程が延び過ぎたということもあって、工程の見直しが入っていくことになりまして、ちょうど見えますけど、二ノ丸の三階櫓の復元順を優先するよという指示を今受けていることもありますので、地盤調査とか、そういったことで周辺のデータとかも上がってくることもあると思いますので、情報共有をできるだけさせていただければというふうに思っています。以上です。

○谷口議長 なるほど。保存活用の、鳥取市さんのプランが大体、来年からスタートですか。

○佐々木委員 再検討は来年、再来年、2か年。

○谷口議長 2か年で。

○佐々木委員 はい。見直しを行う予定です。

○谷口議長 その中での整合性を。

○佐々木委員 はい。

○谷口議長 なるほどね。分かりました。

委員さんのほうで、何か。矢田貝さん、何かありませんか。いいですか。

それでは、美術館の運営状況について、尾崎館長さん、ありがとうございます。ます。

○尾崎館長 美術館について、今年の3月30日に開館いたしました。本当に長い間、ありがとうございます。開館したといいましても、まだこちらにも作品を残しておりますし、我々も兼務を兼ねている状態ですので、これからも、特に人文担当といろいろ一緒にやっていくことになると思いますので、これからもこういった機会に御報告させていただきたいと思っております。

それで、3月30日に開館いたしまして、開館の初日が3,500人の来場となりました。20万人を目標にしておりましたけど、今が28万人を超えまして、恐らく2月の20日ぐらいに30万人ぐらいを達成予定でありまして、1年目だから来てもらわないと困るということもありましたが、非常に順調な滑り出しをしております。まず、利用者数の、そこに書いてござい

ますが、ほぼ1月時点ですが、28万人。企画展が10万2,959人、コレクションのみの人もありますが、大体いらっしゃった方の半分が展覧会を御覧になるというような、逆に言えば、かなり滞在されるだけの方のほうが多いということと、プログラムとかいろんな招待事業も入れてこういった人数になっております。展覧会といたしましては、開館記念展の「アート・オブ・ザ・リアル」というのが5万人、「水木しげるの妖怪 百鬼夜行」が3万5,000人、「The 花鳥画」という展覧会が1万7,000人でした。それで、特筆すべきは、実は今回、開館したということで、皇族のお成り等がございまして、手話パフォーマンスのときに佳子内親王、それから、この花鳥画のときは、タイモン・スクリーチというオックスフォード時代の彬子女王殿下の恩師を講師に招いたこともあって、その彬子女王もいらっしゃって、お話をさせていただくみたいなことがあって、なかなか対応が大変だったんですけど、おめでたい感じだったかなというのもあります。それと、ほかにも、コレクション展としましては、随時やっております通常のコレクション展とは別に、そこに考えておりますのは、いわゆるオールといたしまして、普及的なコレクション展として「光と影のモビール」というふうな展示をしましたし、それから、連携ということで、県内の米子市美とか、倉博とか、そういうとこと連携して、アートミュージアムの共同企画展というのをついこの間まで開いておりました。ギャラリートークとか、ワークショップは通常どおり、かなり頻繁にやっておりますし、今回の美術館の目玉でありますミュージアム・スタート・バスという、小学校4年生を全て招待するという企画、バス招待事業も、そこで101校になってますが、今、120校程度が総数になりますが、ほぼ全ての学校に来ていただく形で進めております。それと、県民ギャラリーとあって、貸し館がございまして、そこには砂丘社の展覧会でこけら落としをしましたが、伝統工芸作家展とか、今年近畿高等学校総合文化祭とかがありましたし、それから、この間、書道の全国代表書作家展といったものもありまして、そこも活発に使われておまして、ほかにもユニークベニューとあって、直接美術館と結びつかないウェディングのセレモニーとか演劇とか映画の上映をやっております。それから、横に大御堂廃寺とあって、非常に大きな緑地がございまして、そこで

打吹まつりとか、やきとり JAPANとかいったいろんなフェスティバルがありまして、このときは、入っていただくのはいいんだけど、食べ物を持ち込まないようにとか、そういうことも非常に留意しながら、これはよし悪しがあるんですが、そういったことで、非常ににぎわっていたことがあったと。

次、ページめくっていただきまして、それで、話題になりましたブリロにつきましては、昨日の新聞にちょっと出たことがありましたけど、高額な作品を買ったということで、アンケートで今後どうするかということ进行を問うという、非常に例外的な試みをしまして、それで、約60%の方が今後も保有すればいいということ、15%、16%が保有を検討しろ、その他が26%ということ、3年間ぐらいやるとか、最初申してはいたけども、ほぼ数が見えてきましたので、知事のほうも1年程度でやめようということ、それで、これの回答を待って、今、凍結になっております美術品取得金というのを再開しようと思っております、今度の議会に諮るんですけど、今まで5億円の基金がありましたけど、それを1億円程度に減額しますが、復活という形で進めております、これにつきましても昨日の新聞に報道されております、ようやく収集の再開のめどが立ったということで、もちろん、これは議会等でも、予算を取って収集はやっていきますが、基金があると非常に機動性が高まりますので、我々としては希望しているところでございます。

それから、3番目のアート・ラーニング・ラボというのは、先ほど申しましたけど、普及部門ですね、これは力を入れておまして、中でも小学4年生をバス招待する事業ですとか、それから、先日は、朝鑑賞という、朝読書ではなくて、朝、学校へ来て、まず作品を見ていろいろ話すというようなことを実践されている先生に来ていただいて、これは割と鳥取県が初の、鳥取県が中心になってやる活動なんですけど、そういったものをおましまして、この辺は、美術館自体も知事部局に移ったんですけど、教育委員会の非常に協力がなければできないことで、教育委員会のお世話になりながらやっております。それと、3番目に休館日を利用して、ふだん来れない人とか、障がいを持った方に対しての特別鑑賞会をやっております。それから、アウトリーチ事業は、従来どおり、美術館外に出て、いろんな活動をしております。

それで、今後の展覧会としましては、今、皆さんのお手元に緑色の「CONNEXONS」というチラシを配っています。これが、今ちょうどまさに準備して、今日もまさに準備中だと思いますけど、初めての現代美術の展覧会、これ、非常に面白い展覧会でありまして、例えば、今見ていただくと、竣工式で130人ほどの人が集まったんですけど、これに対して、石膏で130体の脱皮彫刻というのを作りまして、それ、並べるというような、これも見てもらったら分かるので、そういうことを今進めておる、そういう作家とか、非常に現代美術の面白い作品が並ぶと思いますので、楽しみにしていただきたいと思います。それで、そこに書いておりますコレクション展は年度内なんですけど、5番目になりますけど、来年度の企画展といたしましては、まず、「ポップ・アート時代を変えた4人」ということで、ウォーホルを、「ブリロ・ボックス」を購入いたしましたので、その関係でポップアートの展覧会。それから、夏には、水木に続きまして、谷口ジローの展覧会ですね。それから、来年は、実は前田寛治の生誕130年、それから、一九三〇年協会の創立100年という、非常に周年になりますので、この展覧会を私どもが中心になりまして、私どもと、それから東京のステーションギャラリー、それから和歌山県立現代美術館という3つの館、巡回させる展覧会を考えております。それから、先ほども話に出ましたゴジラ生誕70周年の展覧会なんですけど、これは、ゴジラと現代美術をちょっとくっつけるような展覧会で、それで、ゴジラについては、伊福部さんが鳥取市出身という、音楽をつくられた、そういうこともございますので、今ちょっとお話ありましたが、鳥取らしい味つけをした上で、これは巡回展、実はもう森アーツセンターに始まっておりまして、次が神戸もたしか巡回すると思いますが、そういった、こういったポピュラーカルチャー枠でゴジラの展覧会を今考えております。

それから、最後に、開館記念1周年ということで、これもチラシをつけておりますけども、去年もやりましたが、巨大紙相撲ということをやっております、段ボールで力士を作って、鳥取と、県内3か所、それぞれ行って、それが本場所で戦うというような、そういった非常に話題になって面白かったイベントを計画しております。

そういった感じで、1年目、何となく無事にスタートしておりますが、ま

だまだこれからいろんなことがあると思いますし、また、特にやっぱり博物館と協力してやっていただかないと、我々の美術館、やっていけないと思いますので、今後もどうかよろしく御指導のほうをお願いいたします。以上でございます。

○谷口議長 ありがとうございます。

美術館の運営状況について説明がありました。委員の皆さん、何かありますでしょうか。全体を通じてでも結構でございます。今日の報告事項、協議事項、何かありましたら。二年間の委員、任期がもうこれで最後になりますので、最後にこれだけはということがありましたら、ぜひとも。森本さん、後にしてね、ちょっと待ってね。矢田貝さん、どうですか。いいですか。佐々木委員さんはいいですか、遅れて来られましたが、何か。

○佐々木委員 遅れてしまって申し訳なかったですが、ちょうどコナン展のほうでやる時期というのが、桜の時期に当たってまして、前、市道になってるんですけども、これ、史跡の中ですが、県立博物館さんのために市道にしている流れのものでありますけども、通常だと、露店が出て、輸送車が通れないということだったんですが、うちの観光のほうと、それから、露店のほうと、美術館、主催者のほうで話ししていただいて、うまく整合が取れたみたいでよかったなというふうには思います。そういったところですかね。

幻獣展の話としては福代さんが主査でされるのでしょうか。

○福代学芸課長 いや、樫村さんが主査です、私は見守りです。

○佐々木委員 ですか。ちょっと猫のミイラとか、一緒にまた見に行かせていただければと思っていますので、結構地元のほうの資料で、あまり最近見ないものもあるので、一緒に調査させていただければなというふうに思っています。

○谷口議長 ほかに、委員の皆さんで。

一つ、いいですか。森本委員さん、御存じないですかね。後醍醐天皇だか、何かを舞台にして、NHK、何かドラマやりましたよね、昔。「太平記」か。

○森本委員 「太平記」ですね。

○谷口議長 NHKさんには何かそういうときの映像もあるんじゃないの。

○山本主任学芸員 恐らく。名和長年も出てて。

○谷口議長 名和長年もたしか。

○森本委員 出ました。

○谷口議長 たしか、一回、僕も一族の墓というのを見たんですけども、一時期、全部埋めて、姿形が分からんようになってたんだって地元の人がたしか言っとられましたよ。だから、相当関心があると思いますけどね、発掘すれば。

○佐々木委員 名和一族の話でいうと、結構、近代になって、名和神社が造成されたとか、あの辺り、名和駅ってすごい不自然なところにあるんですが……。

名和神社に行くためだけにで、やっぱり近代のそういう南朝中心、顕彰とかと傾いていたところがあったり、その元になるのが「中世名和一族」という鳥取藩士が書いた著書であったりするので、当時のものとプラスで、もう視野には入ってるみたいですけど、近代のそういう再評価の流れみたいなものが結構あると思います。

○谷口議長 駅も何か坂の途中みたいなところにありますからね。御来屋の漁港に後醍醐天皇が隠岐から引き揚げて、腰をかけたのか、何かありましたよ。

○山本主任学芸員 腰かけの岩ですね。あれを描いた古い絵とかもありますので。

○谷口議長 時間も3時半を過ぎましたが、もうこれが最後ですが、皆さんと討議するのは、また新たなメンバーで討議いただくことになると思いますが、中尾さん、いいですか。

○中尾委員 では、一言。

○谷口議長 はい。

○中尾委員 本当に私、広島のほうの大学を出て、こっち帰ってきてから、第2回目の県展から、ここからずっと出してるんですよ、昭和47年からですね。だから、本当で、この博物館に育ててもらった恩義があるわけです。ですから、片山館長さんはじめ、美術館館長さんもおられる、尾崎美術館長さんもおられるけど、本当に学芸員さんの皆さんの御苦勞を本当で、もういろいろずっと見させていただきました。本当に大変な仕事だと思いますので、これからも頑張っ、本当に博物館を盛り上げていただいて、本当に市民、県民に愛される博物館になってほしいと思っております。よろしく申し上げます。

○藤原副館長 今年のゴールデンウィークは、中尾先生の展覧会がございますので。

○中尾委員 展覧会。よろしく申し上げます。

○谷口議長 それでは、これで閉会させていただいていいですか。  
2年間ありがとうございました。